第８回 北部地区街づくり協議会　議事録	
開催日時	平成31年２月22日（金）18：30～20：10
開催場所	櫟本公民館　大会議室
出席委員	委員　14名
欠席委員	山口委員、大森委員、森田（正）委員、角谷委員、福井委員
事務局	総合政策課３名、産業振興課２名、農林課１名

議事内容

１．開　会　－18：30－

２．市長挨拶

会長

年度末も近づいてきた忙しい時期ですが第８回北部地区街づくり協議会にご参集くださいましてありがとうございます。北部の街づくりは町カ塾、夢応援プロジェクトや各活性化の取り組みと皆さま方が地域主導で進めていただいています。先日の総合教育会議でも櫟本の取り組みの紹介がありました。来年度に向けても様々な取り組みが進化していく時期かなと思っておりますので、今年度の歩みなどについて皆様と議論していきながら次年度に繋げていける会にしたいと思いますのでよろしくお願いします。

３．新委員の紹介

奈良土木事務所長　　木村　道仁　様

４．議事録の承認

第７回協議会の議事録につき、異議なく承認された。

５．議　事

以下、議事進行は会長が進める。

（１） 周遊観光

①櫟旅について

委　員

昨年10月28日最後の日曜日に第４回目の櫟旅ウォークを開催しました。今回櫟旅ウォークについては多方面から約 60 名参加いただきました。フォトウォークについては今回初めての試みで参加者は 19 名でした。櫟本の素晴らしい写真を撮っていただき、参加者がアップロードした写真を閲覧できるように貼り出しました。櫟旅手作りフェスタではまこもかやくご飯を販売し好評で完売しました。全体としては、10月28日に開催するのは、まこもの旬からは少し外れていて、その中で来ていただいた方にまこもをたくさん買っていただいたり食べていただいたりするのが時期的にしんどいのかなと思っており、まこもの旬の時期である 10 月の上旬を第一候補と

して開催するのがいいのではないかと思っています。一番問題になるのは地域の秋祭りと重なることですが、まこもフェスティバルとして商品を販売するのであれば先日の北部活性化プロジェクト委員会で10月上旬がいいのではという話になりました。今回は欲張りすぎた点があるので、もう少し的を絞ったイベントにしていくべきだとも思っております。子どもハローワークも町カ塾の参加も思っていた以上には伸びなかったのかなと思っており、色んな内容をたくさん盛り込みすぎたので力が分散しすぎたのかなと考えています。

会　長

櫟旅について皆様からご意見等ございますか。次回の開催時期についても北部活性化プロジェクト委員会の意向も示されましたがいかがでしょうか。

委　員

10月上旬は秋祭りと被ってくるのでどうなのか。

委　員

まこもの一番いい時期は10月10日前後が一番いいですね。できたら20日までにお願いしたいです。

会　長

日程調整については、お忙しい時期だと思いますが、地域の中で継続相談していただき最良な日にちを決めていただければと思います。

櫟旅ウォークもきっかけになって帯解駅も含めた北部の周遊ルートについて広がりをみせてきているかと思います。他のウォーキングイベントについても事務局から報告をお願いします。

②櫟本ウォーキングイベントについて

事務局

1つ目は「観光ボランティアガイドと歩く・なら」についてですが、こちらは県主催事業であり、県内のボランティアガイドを有する団体と奈良県でタイアップされて企画されたイベントです。今年度、天理市では櫟本エリアにスポットを当てて企画されました。ボランティアガイドさんが古代衣装を着てのおもてなしや、城法大教会では柿のふるまいなどもあり、参加された方々が喜ばれていました。

２つ目は「和邇氏ゆかりの地をめぐる」ですが、こちらは天理市山の辺の道ボランティアガイドの会の皆様で年４回企画いただいている事業の内の１つを櫟本で開催されました。コースは1つ目のイベントとほぼ同じですが順番が逆周りで周っていただきました。

３つ目はノルディックウォーキングのイベントになります。年３回開催しており、昨年度も櫟本で開催をしており、非常に好評で今年度も定員を超える参加者がありました。内容としては櫟本公民館で和爾町の池村千歳園の池村さんと北田源七商店の北田社長にお越しいただき、お茶のワークショップとしてお茶の入れ方講座とまこも茶の試飲をしていただきました。また、森本町のパピヨンファームにも寄りましてイチゴの試食もしていただきました。その後、高井病院へ行

き、医学療法士さんによる膝のセルフケアセミナーやタニタ食堂で昼食を食べられました。今回のイベントですが、ふるさと納税の返礼品として東京の方が申込みをされて参加されました。

会　長

伝・山の辺の道の認知度をしっかりと上げていくきっかけづくりや史跡を巡ってもらうことも重要ですが、農業と観光の組み合わせであったり、健康と観光の組み合わせを打ち出していく中で、ふるさと納税の返礼品にすることも可能であったということです。受け入れ態勢が出来ていれば、東京から来られた方にも非常に満足度が高いものが作れるという確認ができているので、これが日々の動きにどれだけ結び付けていけるかというのが非常に大事だと思っております。

委　員

きっかけづくりには非常にいいと思います。ノルディックウォーキング以外のイベントも県外から来られているのですか。その方々が知るきっかけになったのは何なのかなど、参加された方の動向を教えていただけますでしょうか。

事務局

県外からも参加いただいております。参加される方への周知方法ですが、チラシを中心に色んな観光案内所であったり、市外でチラシを置かせていただける場所に配布しております。さらに市のツイッターやフェイスブックや観光ホームページで積極的に広報させていただいております。最近はWEBを見られて来られる方も増えてきております。アンケートの結果を見ておりますと、また参加したい、前回も標本に来たなどリピーターも増えてきており、そこから口コミなどでさらに広がっていければと思っています。

委　員

年齢的にはどうですか

事務局

観光ボランティアガイドさんと歩くイベントについては比較的年齢層は高いように感じます。一方、ノルディックウォーキングは１０代の方がおられたりして若干若い年齢層になっています。

委　員

今、デジタルコンテンツが非常に進んでいますので、次の段階としてはアナログとデジタルをどのように掛け合わせていくかが大事だなと私も感じております。

会　長

京終駅が新しくなり南からならまちへ繋ごうとしていますが、それよりさらに南に持っていくにはどうしたらいいのかというところにこのエリアの重要性があると思います。車で来られる方にとっては名阪の天理インターや天理東インターから奈良へ行く方に通り過ぎるだけでなく色んなコンテンツがあることを打ち出していくことが大事だと思っています。

委　員

櫟本エリアの重要性やコンテンツを考えると、歴史文化も大切ですが、食に関してもまこも以外にも、たけのこやイチゴ、名阪の向こう側ではぶどうの栽培をされてたりするので、その辺りの農産品の価値も高めていっていただけたらと思います。

会　長

奈良の観光でにぎわっている場所と奈良歴史芸術文化村を結ぼうと思うと北部地区が中心となってくる。石上の方でもワインをつくるためのぶどうを栽培されている方もおられるので、今後、まこもも大事にしていきながら、たけのこの時期、イチゴの時期、ぶどうの時期それと健康づくりや体験、申し込み制度がなくても行ったら何か体験できるといった仕組みづくりができれば非常に強いかなと考えております。

委　員

先ほどの説明の中で、東京から来られたという説明がありましたが、すごく大事なことだと思います。なぜかというと、東京国立博物館に東大寺山古墳から出た中平という刀がある。これは日本最古のものです。柳本町の三面鏡も天理市にはない。それらを展示するための箱物を作るわけにはいきませんが、それくらいのものを打ち出していかないと人は寄ってこないし、続かないと思います。日本最古のものであるというインパクトを利用できないものでしょうか。

会　長

組み合わせだと思います。新幹線だけでも往復３万円からかかるので、どういう所で、どういう方が作られて、そこで何ができるのか。それが全く人里離れたところでなくて、日本の歴史のルーツに通じる場所にいって食べたりしたものが非常に特別な体験だという組み合わせだと思います。イチゴを食べに来られた方がイチゴ美味しかった、で帰られるのでなく、ここがどのような街なんだということをインプットする部分がないといけない。それが複合的にできる強みがこのエリアにはあると思っています。確かに今まで、国宝や重要文化財を展示する場所がありませんでした。今度できます奈良歴史芸術文化村に常設は無理にしても、イベント的にそれらを置けたらと思っています。

③蔵之庄町観光案内看板について

委　員

蔵之庄町活性化協議会の中で、奈良方面から上ツ道を歩かれて、天理市の一番最初の玄関口が蔵之庄町ということで、蔵之庄町に案内看板を設置してはどうかという話になり、天理市に要請して今回補助金をいただいて案内板を作成することができました。櫟旅マップを活用した案内板ということで、櫟旅などのイベント前の９月末に設置ができました。

会　長

今、地域の中で天理に来た時にわかる仕掛けづくりに取り組んでいただきましたが、蔵之庄町の看板について、ご意見等ございますか。

委　員

伝・山の辺の道も確定したので、このような案内看板を作っていただいたのは非常によかったと思います。また、櫟本駅前の看板もありまして、みなさんからも要望もいただいていますし、次は櫟本駅をやっていかないといけないなと。ただ、タイミング的に市の財政が平成３１年度から厳しくなっていくとのことなので、どこからお金を捻出するかが問題です。

委　員

櫟本駅のは非常に大きい看板ですし、だいぶ劣化しておりまして、できたら早急に更新していただければと思います。

会　長

来られた方に喜んでもらうことも大事ですが、作る過程で地域の方々でご議論いただいたプロセスが非常に大事なのかなと考えております。今、ご指摘のありました櫟本駅については市の全部が乗っている地図になっていますので、あのままキレイにするということではないのかなと。櫟本駅に来られたみなさんにどの情報を伝達していくべきなのかを議論する必要があると思います。どのくらい費用が掛かるのかということもありますので、看板の骨組みはしっかりしていると思いますので、盤面の張替えの見積もりを一度市の方で取っていきたいと思います。何を掲載するか、櫟本のみなさんが何を発信したいかを整理していただければと思いますが、いかがでしょうか。

委　員

今櫟本へのアクセスを見ていると、長柄駅、天理駅がキレイになっている柳本駅も今新しくしていて、三輪もしていて、桜井線がすごく活発になっている。櫟本駅がほっとかれている感じがする。櫟本駅を使った構想を議論する中に看板を入れたらどうですか。先に看板をするのではなく、基金も含めて寺川先生もおられますので、櫟本駅をどういう形にしたらいいのか、先ほどの櫟本の特産物もありますし、予算の関係もあるので、いつになるかわかりませんが長い目で見て櫟本駅を有効に使える方法を考えていただきたい。

会　長

仰っていただいたように時期的には非常にいい時期だと思いますが、市が柳本駅と同じことをできる予算を計上することが少なくとも向こう 10 年間は苦しいと考えております。櫟本の地域のみなさんが駅改修はみんなのためになる、かつ、色んな方々を受け入れる交流の拠点にもなるという決断をいただいて、基金をつかってもいいとなればすぐにでも着手できると思います。

委　員

予算のこともありますが、提案なら寺川先生もおられるので、駅にこんなんできたらどうですか、というのをみんなで絵をかいて地域にPR していくことが大事だと思います。

会　長

駅も含めた構想の中で、まずは看板からやってみようという選択肢もありかなと、その時に今のままのモノをただ張替えるのはないのかなと、何を発信していくのか、それを明確にしてやっていけばやりがいがあるプロジェクトになると思います。北部地区活性化プロジェクトの中でも

地域の声が一番大事なので、どういう風に駅を位置付けていこうかという積極的な議論が盛り上がってくれば校区の中で色んな意見交換をされるなかで大事になってくると思います。

④在原神社看板設置について

委　員

昨年に在原神社の説明看板、２年前は道標と近畿大学の学生さんと共同で看板を作成させていただきました。櫟本の中で、在原神社というのは筒井筒など伊勢物語にも登場する重要な文化財ですので、なんとか手作りでもできないかということで作成しました。

委　員

みなさまの協力により設置にこぎつけましたが、あとは長持ちさせるためのメンテナンスをしっかりすることが大事だと思っておりますので、そちらもお手伝いできたらと考えています。どういう風に使っておられるのか、もっとこうしたらよかったのではないかなどもあれば次に活かすためにもまたお聞かせください。

委　員

良くできていると思います。

会　長

学生のみなさまにとって、在原業平や百人一首というのは見聞きしたことがあったかと思いますが、それがこの櫟本の地に結びついているんだという気づきの部分になっていたら地元としては嬉しいことです。

委　員

すごくいい機会で、学生も百人一首は昔遊んだくらいの感覚ですが、「ちはやふる」というアニメが学生にとっては身近でそこに在原業平の話もでてきていて、それがこの場所なんだという感じで比較的繋がりやすかったようです。

（2）モノづくり

①まこもたけの発信

事務局

まこもたけの発信ということで説明いたします。まこもたけを学校給食に使用できないかというのがこれまでの課題でしたが、昨年の 10 月 25 日に学校給食への提供を実施させていただきました。給食の前に小学５年生を対象に和爾営農組合の古川代表にまこもたけの説明をしていただき、また、実際にまこもたけを手に取って触れるという体験をしていただきました。給食では、まこもきんぴらとして３７５食を提供しました。来年度につきましては、供給力の問題もありますが、櫟本小学校以外にも拡大できればと考えております。食材の提供ということで、市役所に出入りしているお弁当屋さんの「一粒」さんでもまこもたけを使った弁当を１日限定ですが、提供していただきました。他にも、大和中華長寿さんや、今年からは「千秋」にも提供されており、

さらに、まこもたけの葉を奈良の業者さんにも提供されており、作付け面積も昨年度より２０a増加され、来年度も２０a の増加を予定されているとのことです。

委　員

まこもたけにつきましては、今説明のあった他に、桜井市の尼寺（音羽山観音寺）の尼さんが精進料理として使用されております。また、先ほど説明のありました葉っぱにつきましては、平成３０年度で１０００㎏を奈良の事業者に販売しました。もう倍ほど欲しいとのことですので、今年度は4,703 ㎡を栽培しましたが、来年度は7,400 ㎡に増やして栽培する予定です。これからも広げていきたいと思っております。

会　長

販路拡大に向けてもご尽力いただいておりますし、櫟旅での活用も含めて今後もバックアップしていきたいと思います。

（3）地元連携

①トラックマルシェ事業について

委　員

昨年に続き、高井病院の駐車場を借りてトラックマルシェを開催しました。櫟本校区、蔵之庄町の活性化のために櫟本校区の地域産品を市場価格より安く提供することで、地域の事業所の存在を広く知っていただくとともに、住民の方々がこのイベントに集うことによって、身近には居てるが、会う機会が少ない方々が会うことによって住民同士の繋がり、交流を深めることを目的として開催しました。今回トラックマルシェに天理市の地域総活躍まちづくり提案事業助成金も活用することができました。従来でしたらイベントにかかる機器をレンタルしなければならないところを購入することができたので、今後も機器を使って継続して取り組んでいく予定です。出店数は昨年のプレよりも8 店舗増加し、27 店舗。来場者数は600 名から725 名に増加しました。今後、トラックマルシェは単なる憩いの場だけでなく、蔵之庄町活性化協議会でも地域の農作物などを使って蔵之庄町の特産品を作ってトラックマルシェで販売して、それが地域の活性化繋がっていかないかということも検討しております。

委　員

蔵之庄町で、６次産業ができないかと思い、ずっと勉強していますが、なかなか一歩前へ進めない状況です。旗を振ってくれる人がいなくてこれで勝負しよう、今ある中で使っていけるものはないのかなと思って悩みながら勉強をしているところです。蔵之庄町だけでなく櫟本でも特産品を作って、それを置ける場所を作ってと思っています。そのようなことをこの場でも議論していきたいと思っています。町単位でできる、小規模な６次産業を考えています。一度農林課へも行かせていただいたことがありますが、ぜひ、参考になるような例をこの場で出していただけるとありがたいです。主になる人間とか、特産品も何に手を付けたらいいのか、悩んでいますので、勉強できるような場所や補助金などについて教えていただきながら勉強していくことが大事だ

と思っています。何年後にできるかわかりませんが、ご協力をお願いします。

会　長

農政局の補助金もありますし、地域の有志のみなさまが一緒になって何かできないかという取り組みの中で、一定の規模でも特産品開発に繋げた事例というのを調べて、みなさまに情報共有させていただきます。

委　員

まこもたけもありますが、加工、販売というところが苦手なところであります。６次産業としては、森田アロエさんがまさにやられている。ああいうものを一つでも二つでも増やせればいいなと思っています。

②町カ塾、夢応援プロジェクトについて

委　員

夢応援プロジェクト事業である夢シリーズが４つあります。夢ひらく、夢かたる、夢つなぐ、夢まもる。この４つの事業で今後構成していきたいと考えています。夢ひらく事業は夢を持っていない子どもたちに、プロを呼んでこんな仕事もあるんだという気付きから夢を持つきっかけにしてもらう事業です。夢かたる事業は学生や子どもたちに近い世代の話をしてあげようという人を招いて、その人の実体験から小学校の時の思いなどを語ってもらう事業です。夢つなぐ事業はポイント事業に繋がってきますが、マチカポイントを貯めて上位の１０名の方になりたい夢を聞いて、その夢の実現につながっていくことを行う事業です。今年はカメラマン、パティシエ、プログラミング、医療関係、車の整備士、イラストレーターの６個の夢つなぐ事業を行っており、現時点で５つ終わっており、後は月曜日にイラストレーターを残すのみです。夢まもる事業は、現在試行段階ですが、この事業は高齢者の健康維持活動と子どもたちの安全確保を結び付けたWin Win の関係で、見守り隊として子どもたちが集団登校するところに集まってもらって、そこから子どもたちの後ろから安全をみまもりながら一緒に学校へ登校していただいております。学校の協力をいただき、教室の一室を空けていただいて、そこを夢茶屋として、簡単な茶菓子とお茶で一服してもらうことで、その方々のコミュニケーションの場としていただいております。こちらは登録制にしております。３０か所くらいの分団が集団登校をしていますので、後々は全分団に見守り隊がいる形ができればと思っております。今現在１０数名に登録いただき歩いていただいております。他には町カ塾は月１回、４、５、６年生で開催しております。前回から天理教青年会様の協力をいただき、そちらから数名ボランティアでお手伝いをしていただいております。定着ということを考えると、それぞれの事業を頑張っていただける団体があればそちらに移行していくことも検討しています。

委　員

子どもたちが地域に関わって育っていく中で、大きくなった時に戻って来れる地域づくりをしたいと思います。子育てするなら櫟本校区だと言われるようにして、もっと若い世代に住んでも

らえるようにしてきたいと考えています。

会　長

見守り隊は従来の集団登校を見守るだけでなく、一緒に歩いて行って地域交流にも繋がるという非常に面白いアイデアかなと思っています。夢応援プロジェクトの展開についても櫟本校区区長会にも全面バックアップいただきながら成長してきているなと感じています。

委　員

学校側も校長、教頭や他の先生方、事務員が積極的に係わっておられますが、いつかは異動がありますので、この事業は地域で支えていかないといけないということを念頭に置いてみんなで努力しながら続けていっていただければと思います。学校の職員さんが変わってもこの事業が継続発展していくように協力しあっていければと思います。

委　員

本日初めて出席しましたが、地域の方々の取り組みが非常に素晴らしいなと感じています。一方で、何かをしようとするとお金が必要だということで、そこで非常に苦労されているなと感じました。本日の話題にありました、観光案内看板も奈良市内の奈良公園、平城宮跡の案内サインはかなり県がつけています。天理市北部地区にどのような支援ができるかということは考えていきたいと思います。街づくりのモデル地区として何か県が予算を出すことができないか、どのような支援が可能なのかを地域デザイン推進課と一緒に考えていきたいと思います。

会　長

県市でしっかり連携していければと思いますのでよろしくお願いします。最後にご相談したいことがあります。市の方が先ほどからお伝えしておりますが、市民サービスを低下させることなく、しっかり財政運営をやっていこうということで今１０年の改革プログラムに取り組んでいます。職員の努力によっていいスタートが切れているところですが、重要なポイントとして、みなさまにはお仕事がご多忙な中、本協議会に参加いただいており、ありがたく思っております。しかし、働き方改革をする中で職員全員がこの時間にとなると、時間外勤務という形になりますので、可能であれば次回の日程調整の時には通常の勤務時間内に開催できないかということを相談させていただければと思っています。そこで集まらないようであれば再考していくことになりますが、次回日程調整をさせていただく際に、このお話を念頭においていただければと思いますが、ご意見等ありますでしょうか。

全委員　異議なし

会　長

それでは次回から夜間以外の時間帯での開催を念頭に日程調整をさせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。では、以上をもちまして第８回北部地区街づくり協議会を閉会したいと思います。みなさまありがとうございました。

６．閉　会　－20：10－